

ひさしにわたりて、かうらいのた、みを問ごと、二帖づ、しく、なかにおしあはせて、おくほしのきはをすかして、おなじとほりにしくべし、なかをあけてしくこともあり、

〔三中口傳〕一客人來臨事

大臣來臨事

客亭第一間、對主人座敷高麗端帖一枚、其上加茵主人座不加之、賓座或不敷之、

〔枕草子〕うれしき物

かうらいべりのた、みのむしろあをうこまかに、へりのもんあざやかに、くろうしろう見えたる、引ひろげて見れば、何か猶さらに此世はえ思ひはなつまじと、命さへおしくなると申せば、いみじくはかなき事も慰むなるかな、おばすて山の月は、いかなる人のみるにかとわらはせ給ふ、

〔小右記〕治安三年四月十六日己酉今日賀茂祭略中上達部座高麗端疊上敷茵、

〔春記〕長曆三年十二月廿一日丁丑内大臣藤原教通長女生今夜初入内、廿一日戊寅、小時敷座高麗端一枚、其上敷茵此對南向對也、仍南面敷之、

〔定家朝臣記〕康平五年九月十三日、朝夕御湯如常、已刻關白殿下藤原賴通渡御、今夕、本家政所儲若君

御衣并饗饌等、渡殿副北障子、立白四尺屏風五帖、二行敷高麗端并紫端疊、爲上達部殿上人座、豫敷

長筵、

〔寛治二年記〕寛治二年十二月十四日丙辰、今日攝政殿下藤原師實令任太政大臣給依御元兼日奉仕

御裝束其儀略中西北渡殿西第四間、身屋西邊立四尺屏風二帖、敷高麗端疊一帖爲息所、廿七日

戊辰早旦參殿、依興福寺法成寺僧徒可參賀、令奉仕御裝束略中迫屏風、自東第一間中央敷高麗端

帖三枚、其上敷高麗端土敷施紫錦緣圓座四面爲僧都法眼座、

帖三枚、其上敷高麗端土敷施紫錦緣圓座四面爲僧都法眼座、